

学習指導の 振り返りと見通し

学校教育課通信

平成28年7月25日（月）第128号

編集・発行：県南教育事務所 佐藤 晃

夏季休業を迎えました。4月の入学式から始まった4ヶ月、運動会や中体連など大きな行事も多く、慌ただしく過ぎたことと思います。児童生徒が夏季休業に入ったこの時期に、授業改善ハンドブック「授業をつくる16の視点」をもとに、1学期の授業を振り返り、2学期の実践事項の見通しを立ててみてはいかがでしょうか。

1 1学期の授業を振り返る（授業をつくる16の視点 P62～）

授業を振り返る3つの視点

子どもの姿を振り返る

- ・児童のノートから
- ・座席表記録から
- ・録音・録画資料から
- ・児童生徒との日常の関わりから

授業展開を振り返る

- ・学習感想や自己評価表から
- ・設定した評価規準から
- ・テスト等から
- ・録音・録画資料から
- ・週案などから

宿題とのつながりを 振り返る

- ・個に応じた宿題
- ・学びが生きる宿題
- ・学習課題につながる宿題
- ・身近な素材を用いた宿題

週案記録や研究授業の記録、児童の学習の記録などを振り返ってみると、児童生徒の特性が客観的に見えてきて、その特性に対しての2学期の学習指導の重点が持てるのではないのでしょうか。

2 学級集団を見直す（授業をつくる16の視点 P58～）

○教師の意識改革

- ・子どもは間違えて成長する（成長の途中。間違いは当たり前という意識を。）
- ・誤答を生かす（誤答について話し合うことで、ねらいや本質に迫る。）

○学習規律の確立

- ・学習ルールを提示する（共通理解のもと、学年や学校で共通実践を大切に。）
- ・毅然とした指導を（時には毅然とした指導も必要です。安心できる学習環境を。）

○子ども同士のかかわり・つながりを意図的につくる

○認める、ほめるから生まれる信頼関係

○学級づくりは授業が基本

学習の基盤となるのは、学級集団です。言語活動が充実するのも、安心して発言することができる学級があってこそです。学び合う親和的な学習集団の中で、それぞれの考えが表現される。その積み重ねを大切にしていきたいものです。

3 2学期の授業を見通す

（1）単元をつくる（授業をつくる16の視点 P6～）

ねらいを明確に

- ・身に付けさせたい力を明確に持つこと。
- ・9年間を見通して、系統性を踏まえながら単元の指導計画を考えること。

実態把握を大切に

【方法】

- ・テスト ・質問紙
- ・観察
- ・他の教師との情報交換（見えない側面が見えることも）

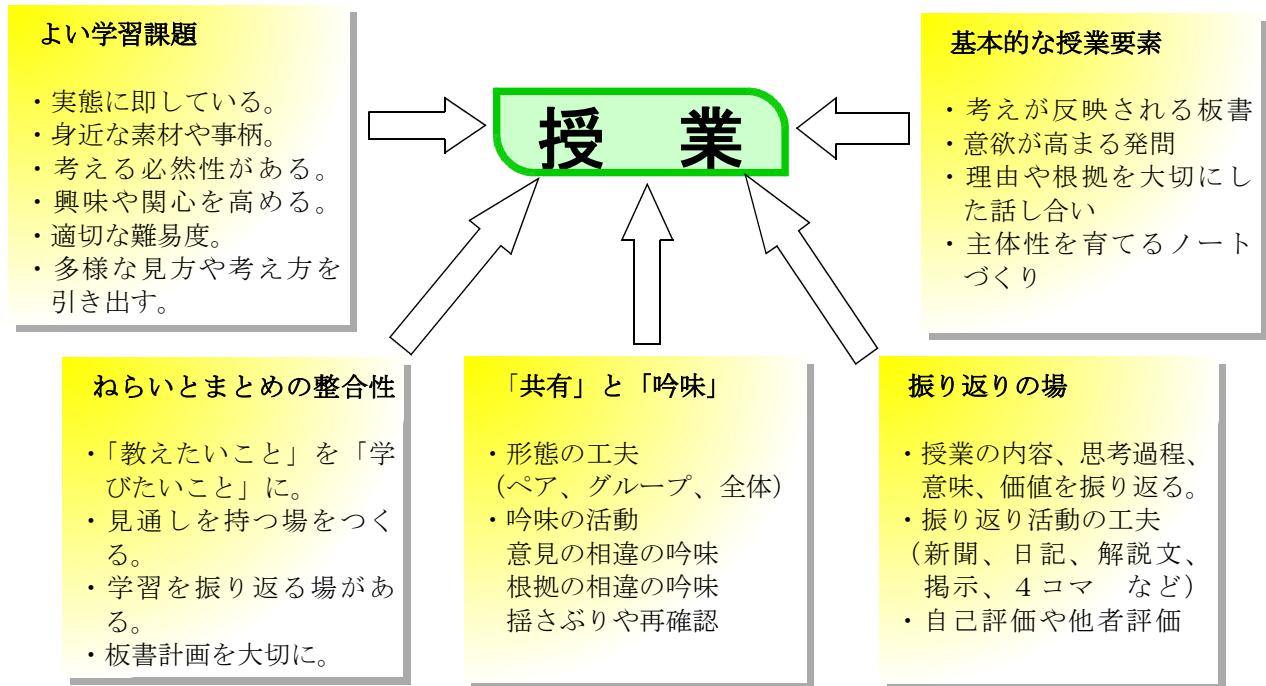
単元全体を見通して

- ・子どもの思いや願いを生かす。
- ・ねらいと活動内容のつながりを。
- ・ねらいと教材とのつながりを。

言語活動を組み入れて

- ・思考・判断・表現力を伸ばす。
- ・どんな活動を、どの場面に位置づけるか。
- ・言語活動の評価方法を工夫する。

(2) 授業をつくる（授業をつくる16の視点 P24～）



(3) 授業を進める（授業をつくる16の視点 P44～）

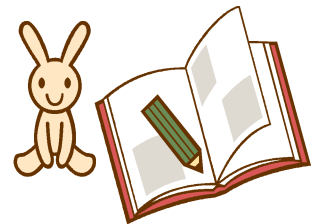
子どもの姿を見取る

【方法】

- ・観察 ・ノート ・ワークシート ・話し合い活動 ・発表活動
- ・評価規準 ・評価問題 など

【4つの「みる」】

- ・学習活動の全体像を「見る」
- ・学習課題や問題の取り組みの様子を「観る」
- ・学習の進め方や理解の実態を「診る」
- ・学びの様子を把握して個に応じて「看る」



子どもの考えや発言をコーディネートする

- 引き出したい考えや発言を具体化する。
- 「分からない」というつぶやきに寄り添う。
- 考えを書かせ、それを生かす。
- 思考過程を共有・吟味する。
 - ・考えや意見の可視化
 - ・「いいですか」→「いいで一す」からの脱却。

個々の子どもに対応する

- 個人差の受け止め
- 個々の子どもに応じた指導と支援
 - ・学習速度の速い子への指導と支援
 - ・学習速度の遅い子への指導と支援
 - ・作業速度に応じた指導と支援
 - ・子どもの興味関心や得意分野を生かした指導と支援
- ユニバーサルデザインを取り入れた授業



授業の要素はたくさんあります。すべてのレベルアップに取り組もうとしても、なかなかうまくいきません。一つか二つを重点として、2学期の教育実践に取り組んでみましょう。